

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名 **一般社団法人MIT**

記入者名： **一般社団法人MIT 吉野元**

上位関連計画にみる地域の将来
 ○第2次対馬市総合計画のビジョン「自立と循環の宝の島つしま」では、2025年までにみんなが主役になる希望の島、地域経済が潤い続ける島、支え合いで自立した島、自然と暮らしが共存する島を目指している。
 ○現在の人口：29,547人、将来：26,700人(2025年)、20000人(2045年)(対馬市総合戦略)

②具体的な取組
 ●民有林や市有林の共有地化・トラスト化：モデル林の選定と規模拡大、ゾーニングとビジョニング(行政・市民)
 ●森づくり人材の確保と育成：小規模林業及び有害鳥獣対策、森林資源の活用を行う人材(行政・市民・NPO・研究者)
 ●多様な森林資源の高付加価値化：木材や木工品、ジビエ、原木しいたけ、はちみつ、ゆず、エコツーリズム、エッセンシャルオイル、燻製、椿油、山茶等(生産者・事業者・NPO等)

①ありたい未来
 ~百花蜜がたくさん採れる豊かな森を取り戻そう！
 ●ニホンミツバチやツシマヤマネコと人が共生する豊かな森の島
 ・対馬の豊かな自然を象徴するニホンミツバチやツシマヤマネコの個体数が増加している。これらを支える豊かな生物多様性が回復している。豊かな自然の中で、人々が精神的な豊かさを実感し、経済や社会、環境のバランスが取れた持続可能な暮らしを楽しんでいる。
 ●地産地消・自給率100%の地域経済循環の持続可能な島
 ・市民が自然の恵みを持続可能な形で活用し、農林水産業が成り立ち、自律的な生産体制が構築されている。半農半Xのような多様な働き方をする市民が増え、一次産業の担い手が確保されている。
 ・自然・歴史・文化・人などの地域資源を生かしたおもてなしのサービスを市民が観光客に提供することで、リピーターや対馬ファンが増えている。
 ・島内での流通体制が整い、対馬製品の消費も進み、地域経済が循環している。対馬製品がブランド化され、高付加価値がついている。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
			(2020年4月)	(2020年度末)	(2020年度末)	
環境	ニホンミツバチの生息状況	対馬市ニホンミツバチ部会の会員数	70	70	70	人
	ツシマヤマネコの生息状況	ツシマヤマネコの生息頭数の増加	90または100	回復させる	90または100	頭
	有害鳥獣被害対策	鹿の捕獲頭数の増加	6,253	12,000	8,104	頭
	持続可能な森づくり	共有林(トラスト)の面積の増加	0	100	20	ha
経済	予算・財源の確保	MITの森づくり関連事業費の増加	400	800	約700	万円
	観光客の増加	MITの雑貨店の来島者数の増加	約500	2,000	約700	人
	林産物の売上増加	MITの林産物の売上の増加	約50	500	約150	万円
社会	保全活動の推進	ヤマネコ保全の団体数の増加	4	5	4	人
	環境教育の推進	エコツーリズムガイドの人数の増加	2	10	2	人
	多様な主体による森づくりへの参画	自伐型林業の従事者数の増加	3	10	3	人

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
			(2020年4月)	(2020年度末)	2030-2050年度		
環境	ニホンミツバチの生息状況	対馬市ニホンミツバチ部会の会員数	70	70	2030年	200	人
	ツシマヤマネコの生息状況	ツシマヤマネコの生息数の増加	90または100	回復させる	2030年	大幅に回復	頭
	有害鳥獣被害対策	有害鳥獣による被害額の減少	4,354	2,000	2030年	0	万円
	持続可能な森づくり	共有林(トラスト)の面積の増加	20	100	2030年	2,000	ha
経済	予算・財源の確保	森林保全への予算・財源の増加	5,000	-	2030年	20,000	万円
	観光客の増加	対馬への来島者数の増加	10,000	30,000	2030年	100,000	人
	林産物の売上増加	林産物の売上の増加	10,000	-	2030年	100,000	千円
社会	保全活動の推進	ヤマネコ保全に関わる市民の数の増加	不明	不明	2030年	10,000	人
	環境教育の推進	エコツーリズムガイドの人数の増加	2	2	2030年	100	人
	多様な主体による森づくりへの参画	自伐型林業の従事者数の増加	3	3	2030年	100	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

当事業を実施することによる成果(短期目標)を積み上げることで、長期的な対馬全体の目標(アウトカム)を生み出すことを想定している。数値化しやすく、把握でき、様々な取り組みのKPIとなる指標を抽出した。ニホンミツバチやツシマヤマネコは、対馬の自然を象徴する生物であり、豊かな自然環境がなければ生息できない。これらの象徴種の生息状況やそこに直接的に影響を与える有害鳥獣や森づくりに関する指標も併せて設定した。ミツバチやヤマネコの生息数を増やすためには、保全活動に対する市民の理解と参画が必要であり、そのための受け皿(活動団体)や教育の基盤整備が重要である。また、自伐型林業は、環境保全と林業を両立する新たな林業形態として全国的に注目されており、若者の移住定住や雇用創出、副業制度の構築にも寄与することから、環境・社会・経済のバランスが良い森づくりの生業の一つであると考え、目標設定に入れている。環境と経済の取り組みを推進するためには、予算・財源の確保が必要であり、行政の予算の確保に止まらず、観光客の増加と林産物の売上の増加を指標として、外貨獲得を目指す。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください